

## 車内子ども熱中症

### 37%がリスク体感

#### 保護者の意識調査

子どもが車の中で熱中症になるリスクを実際に体感した経験がある人は4割。アクサ損害保険（東京）が保護者を対象に実施した自動車運転の意識調査で、こんな傾向が浮かんだ。今年梅雨明けが早い上、厳しい暑さが続く恐れもあり、注意が必要となりそう

だ。車を所有し、0～12歳の

子どもを1カ月に2回以上乗せて運転する全国の20～40代を対象にインターネットで4月に調査。千人から回答を得た。

6～9月に車内の熱中症リスクが高まることを「知っている」人は79・1%。残りは危険を認識していなかった。

どんな時にリスクを感じたかを複数回答で尋ねると「車内で子どもが暑かった」20・6%、「子どもを5分ほど車内で待たせた」9・2%、「体調不良を訴えた」7・0%などとなった。全体の37・7%がリスクを感じた経験があると答えた。

実施している対策（複数回答）は「クーラーを適切に活用」が52・2%。「短時間でも子どもを車内に残さない」「適宜水分を取る」もあった。

熱中症対策に詳しい帝京大の三宅康史教授は「晴れた夏の炎天下では、少し窓を開けても車内は10分で危険な状態になる」と指摘。「走行中でも、水分摂取を我慢させたり、日の当たる席に座ったりするとりスクがある。常に親が見守るべきだと認識してほしい」と指摘している。